

私は公衆衛生学講座での実習を希望していましたが、留学中は主に他国からきた留学生と共に、基礎医学の授業に出席しました。授業の内容は解剖学、生理学、生化学、病理学など、私たちが主に二年生で学習した内容を、すべて英語で学びました。留学生のクラスには様々な国の生徒がいました。一番多かったのはインドの学生で、他にも、シンガポール、タイ、ミャンマー、イラン、ケニア、カナダなどなど、たくさんの国の生徒達と交流することができました。

私は今回の留学が初めての留学であったので、言葉が通じるのか、また友達ができるかどうか不安でしたが、他国の留学生は皆フレンドリーで、向こうから積極的に話しかけてくれました。日本人の留学生は他にいなかったため、彼らは僕たちにとっても興味を抱いているようでした。また、他の国の人たちにとって、日本の印象はとてもいいように感じられました。特に、電化製品、車、アニメなど、日本のメーカーや文化が海外に人気があるのが理由だと感じました。中には私よりもはるかに日本のアニメに詳しい留学生もいたくらいです。日本人として世界に認められるものがあるというのは、とても誇りに思えました。

今回の留学を終えてまず思ったのは、第一に英語力の大切さでした。日本にいたとまったくと言っていいほど話す機会がありませんが、他国のひととコミュニケーションを取るには必須なので、留学前にもっと勉強していけばよかったと後悔しました。ですが、その必要性が身にしみたことは大きな収穫でした。他の留学生は英語が母国語でなくても当たり前のように英語で授業やテストを受け、お互いに英語でコミュニケーションを取っていました。数年後には僕たちと同じように医者になる人たちです。これからは医学の世界はもちろんのこと、ますますグローバル化が進んでいくと思うので、英語がしゃべれるかしゃべれないかで、医者としても大きな差ができてしまうと感じました。なので、日本で医学を学びながらも、世界に目を向け英語を勉強し続けていこうと思いました。

次に様々な人との出会いを通して、いろいろな価値観があることを改めて実感しました。宗教的な視点から見た価値観、また他国の事情からみた価値観。自分と違った価値観があるのを認め尊重し、相手と向き合うことが大切だと思いました。またそれと同時に、自分自身の価値観も確立して、自信を持って自分はこういう考えを持っているのだと言えるようになることも必要なのだと思いました。今回の留学の自分なりの目標であった、色々な人との出会いの中で自分の視野を広げたいという目標は達成できました。これは、自分が将来医者になった時に必ず役に立つと思います。

最後となりましたが、今回の留学の機会を与えて頂いた菊地学長を始め諸先生方、また留学のために色々手配をして頂いた高橋さんを始め企画財務課の方々、武漢大学で世話をして頂いたデイジーさんに心から感謝申し上げます。来年の後輩も自分と同じように、

貴重な経験ができるよう私も微力ながら力になりたいと思います。